

令和2年度冬季企画展

是川遺跡発掘100周年記念

是川遺跡の注口土器

注ぎ口がつけられた注口土器は、縄文時代草創期からつくられ、片口土器として続き、縄文時代の後期から晩期に数多くつくられるようになります。

是川遺跡からは、縄文時代晩期を中心に、100点以上の注口土器が出土しています。本展では、泉山兄弟による発掘から100年を記念し、多様な形や文様がデザインされた注口土器を紹介します。

○会期

令和2年12月12日（土）～令和3年3月21日（日）

○展示品のみどころ



① 赤色の漆が塗られたもの

縄文時代晩期 重要文化財 高さ 7.5cm



② よく磨かれて光沢をなすもの

縄文時代晩期 重要文化財 高さ 9.4cm



③ 大きな飾りや前面に文様がつくもの

縄文時代晩期 重要文化財 高さ 12.2cm



④ 透かし彫りの飾りがつくもの

縄文時代晩期 重要文化財 高さ 10.1cm